2025 年 9 月 9 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語学専攻
専攻主任名	嶺田明美
教務主任名	嶺田明美

200 字以内

今期の総評
回答率 3/4（75.0%）。 在籍者（回答者）が少ないため、ポイントの有意差は低いとは思うが、すべての項目で 4.67 であり、良好であると言えよう。個別のコメントもない。個別には、ラーニングコモンズの利用はしていない人がいること、機器設備について、２を回答した人がいることが、今度の改善の必要がある項目と考えられる。

200 字以内

改善のための方策
ラーニングコモンズ（院生研究室）の利用は、博士課程後期の院生にとっては各個人の状況によるものであり、必要に応じて利用するものと思われる。機器設備については、コピー機は基礎学科の教授室で利用可能であるし、プリンタも院生室で利用可能であるので、どういう点で満足していないかを聞き取りたい。

2025 年 9 月 5 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	文学言語教育専攻（含・言コミ専攻、英米文学専攻）
専攻主任名	嶺田明美
教務主任名	嶺田明美

200 字以内

今期の総評
回答率 16/17（94.1%）。 カリキュラム・授業、院生、総評のすべてが 4.46 ポイントでおおむね高い評価といえよう。この結果から、文学言語教育専攻カリキュラムは、本年度スタートしたばかりであるが、本年度入学の学生にとって適切であると思われる。個別のコメントでは、パソコンの使用やネット環境について改善をもとめるものが、各専攻の合計で３件寄せられている。

200 字以内

改善のための方策
カリキュラムについては、今度も、継続して適正であるかどうかを検証したい。特に、４領域共通科目が、当初の設置目的に適っているかは、学生の満足度も図りつつ考えたい。パソコンについては、大学全体として学生個々が持参する方向に向かっているため、この点について周知したい。なお、ネット環境については、事務の関連部署に相談しつつ、改善を図りたい。

2025 年 9 月 11 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活機構学専攻
専攻主任名	大谷津早苗
教務主任名	中村徳子

200 字以内

今期の総評
回答率が芳しくないので今後はさらに呼びかけを徹底し 100%回答を目指したい。また、全体的に評価が低く、とくに「大学院の授業を通して、将来の進路につながるものが発見できたか」という質問に対しての評価が低いことについては早急に対応をしていく必要がある。担当教員との関係は良好な結果を得ている。

200 字以内

改善のための方策
研究分野が多岐にわたる機構学専攻の特徴により、カリキュラムや授業についての満足度が下がってしまう可能性は否めない。その点により、評価が特に低くなっている院生のキャリア教育に結びついていないといえる。今後はより明確に、授業内容と進路の接点を明示していきたい。

2025 年 9 月 12 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活文化研究専攻
専攻主任名	湯上　良
教務主任名	三野　行徳

200 字以内

今期の総評
全体的に、概ね院生からは教育・研究環境に一定程度の満足得られていると評価できる。カリキュラム・授業に関する設問では、特に授業内容や研究指導に高い評価を得ることができている。一方で、設問 9 の機器備品に関してや、オンライン授業の映像や音声の品質の評価がやや低く、改善の余地があると評価できる。また、13 以降の将来の進路や学内学会への参加などもやや評価が低いため、この点も改善の余地がある。

200 字以内

改善のための方策
評価の低かった機器備品に関しては、各分野の研究に必要とされる IT 機器や教室の設備等は日々変化しており、院生が必要とする研究環境に院生室や教室がアップデートできていない可能性がある。オンライン授業も含め、教員個々の努力ではなく、環境として適切な状態にあるか、院生からの聞き取りも行うなどして定期的に確認し、可能な限り研究環境を整える仕組みを構築したい。生文には学部からの進学に加え、現職社会人、社会人生活を終えた方、留学生など、多様な方々が学んでいる。多様な方々の将来にどう関与できるか、あらためて検討したい。

2025 年 9 月 14 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	生活科学研究専攻
専攻主任名	林　真理子
教務主任名	白川　哉子

200 字以内

今期の総評
総評が他専攻より低くなっているが、昨年度も同様の評価として「院生室やラーニングコモンズの利用」は、学内外で実験等を行う専攻として使用頻度は確実に低く、さらに、院生室の場所についても PC 機器の利用が不便に感じていることもあり、検討の余地があると考える。 図書館の利用については、オンライン機能の活用や利用について希望を確認したい。

200 字以内

改善のための方策
大学院のカリキュラムについては、学部改組以降大学院のカリキュラムの見直しを予定している。院生室の活用については場所についての解決が必要である。 研究室の諸活動や学会への参加は研究の進捗状況や状況によって異なることから、スムーズな研究の遂行の支援が必要である。修士論文中間発表会では１年生には座長として主体的に参加できるようにし、２年生には研究・発表の問題点を洗い出す機会となるようにした。

2025 年 9 月 13 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	心理学専攻
専攻主任名	松野　隆則
教務主任名	榊原　良太

200 字以内

今期の総評
「カリキュラム・授業」に関する項目は全て平均が 4 を超えており、授業や研究指導に対して概ね高評価を得ていると言える。「研究室の諸活動や学会などへの参加」に関する項目の平均が 3.0 と、他の項目と比べてやや低い値となっているため、研究会や学会への参加促進が十分ではなかった可能性がある。なお、自由記述のコメントについては、それぞれ対策を検討した後、学生へ具体的な対応を明示していく。

200 字以内

改善のための方策
「研究室の学会などへの参加」が昨年に続いてやや低い値となっているため、引き続き具体的な活動や学会を明示したり、それらへ参加することのメリットを説明したりすることで、学生の動機づけを高めていきたい。また、「担当教員への相談」に関する項目も改善の余地がある。学生が相談しやすい環境を整えるため、定期的な個別面談やオフィスアワーを設けたり、教員から積極的に声をかけたりすることで、相談のハードルを下げ、双方向のコミュニケーションを促進していきたい。

2025 年 9 月 6 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉社会研究専攻
専攻主任名	鶴田　佳子
教務主任名	川﨑　愛

200 字以内

今期の総評
履修登録について改善を試み、２つの基礎学科で連携し履修登録前に時間割の調整、他専攻の履修希望の有無を調査、履修の打診をしたことが院生の学修の満足度の向上につながったと推測される。5 点満点の専門的な力がついた、論文や研究の指導が適切、院生室等の活用は専攻の取り組みと合致している。院生研究室のコピー機やパソコンについては、常に問題なく使用できるよう大学院担当助手が整備している。プリンター、パソコンとも院生のニーズにこたえるため、各学科の会議にかけて予算を計上した。

200 字以内

改善のための方策
他の専攻と比べると全般的に満足度が高い結果であるが、専攻内では、図書館の利用、進路につながる学び、研究室諸活動や学会への参加が 4.57 と相対的に低い。 日本人１名以外は中国からの留学生であることが、影響している可能性がある。 これまでは自由記述が複数みられたが、今回はゼロだった。 日本語での授業、レポートや修士論文の作成、進路について今後も一層、指導教員と情報を共有しながら専攻もサポートしていく。

2025 年 9 月 8 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	環境デザイン研究専攻
専攻主任名	森部 康司
教務主任名	内田 敦子

200 字以内

今期の総評
学生数が少ないため カリキュラム、授業運営についての評価は概ね高く、院生室等の施設や設備についても積極的に利用しており、評価も高い。一方で各自の研究テーマに関する評価については他と比較してやや低い結果であった。

200 字以内

改善のための方策
各項目に対し、概ね評価が高かったが、他と比較してやや評価が低い結果となった研究テーマに関しては進捗状況などについて、院生にヒアリングを行い、状況を把握した上で改善につなげたい。

2025 年 9 月 4 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	人間教育学専攻
専攻主任名	中村　徳子
教務主任名	白數　哲久

200 字以内

今期の総評
設問 16 以外はすべて 4.5 以上であり、院生の満足度が高いことがわかる。引き続き、院生に寄り添って丁寧に指導をしていきたい。 前回評価が高くなかった、プリンターなどの機器類の設備については、5.0 と改善が見られた。また、院生研究室の利用についても 5.0 と高いことから、院生は多くの時間を院生研究室で過ごしていることがわかる。居心地よく、リラックスしながら院生同士の交流が図れるような院生研究室づくりを目指していきたい。

200 字以内

改善のための方策
人間教育学専攻では年 1 回の合宿を行う予定である。留学生が多いことから、教員と院生、院生と院生の交流を図り、心配事があれば取り除けるように対話していく。また、合宿の中で各種ガイダンスを丁寧に行っていく。 院生研究室のいすや机を、より使いやすいものに変えていくことで、居心地の良い院生研究室をつくっていく。

2025 年 9 月 15 日

2025 年度前期　大学院 FD アンケート結果に対する改善報告書

専攻名	福祉共創マネジメント専攻
専攻主任名	粕谷　美砂子
教務主任名	李　恩心

200 字以内

今期の総評
専門職大学院のカリキュラムや授業内容、研究指導、オンライン授業等に対して全体的に高い評価が得られた。しかし、1 年制コースということもあり、院生の仕事との両立の難しさや教員の専門分野に関する講義の充実について課題が見られた。

200 字以内

改善のための方策
必修科目の授業内容を見直すなど、カリキュラムに対する期待度や満足度をさらに高めるための工夫が求められる。仕事と研究の両立について課題が多く見られるため、入学前後において計画的な授業履修に向けてガイダンスを行っていく必要がある。研究指導については肯定的な評価が多かったが、担当教員の専門性を活かしつつ、院生の論文執筆のための指導やサポートを強化していく。